

## 唱歌・童謡の歌詞

### 1. 桃太郎

- 一、桃太郎さん 桃太郎さん  
お腰につけた きびだんご  
一つわたしに くださいな
- 二、やりましょう やりましょう  
これから鬼の せいばつに  
ついて行くなら あげましょう
- 三、行きましょう 行きましょう  
あなたについて どこまでも  
家来になって 行きましょう
- 四、ねそりゃ進め そりゃ進め  
一度に攻めて 攻めやぶり  
つぶしてしまえ 鬼が島
- 五、おもしろい おもしろい  
のこらず鬼を 攻めふせて  
分捕物(ぶんどりもの)を えんやらや
- 六、万々歳(ばんばんざい) 万々歳  
お伴(おとも)の犬や猿雉子(さるきじ)は  
勇んで車(くるま)を えんやらや

### 2. みかんの花咲く丘

- 一、みかんの花が 咲いている  
思い出の道 丘の道  
はるかに見える 青い海  
お船がとおく 霞(かす) んでる
- 二、黒い煙(けむり)を はきながら  
お船はどこへ 行くのでしょうか  
波に揺(ゆ)られて 島のかげ  
汽笛がぼうと 鳴りました
- 三、何時か来た丘 母さんと  
一緒に眺(なが)めた あの島よ  
今日もひとりで 見ていると  
やさしい母さん 思われる

### 3. 茶摘

- 一、夏も近づく八十八夜(はちじゅうはちや)  
野にも山にも若葉が茂る  
あれに見えるは茶摘じゃないか  
あかねだすきに菅(すげ)の笠(かさ)
- 二、ひよりつづきの今日このごろを  
心のどかに摘みつつ歌う  
摘めよ摘め摘め摘まねばならぬ  
摘まにゃ日本の茶にならぬ

### 4. ツキ(月)

- 一、でたでたつきが  
まるいまるい まんまるい  
ぼんのようなつきが

- 二、かくれたくもに  
くろいくろいまっくろい  
すみのようなくもに
- 三、またでたつきが  
まるいまるい まんまるい  
ぼんのようなつきが

### 5. かたつむり

- 一、でんでん虫々 かたつむり  
お前のあたまは どこにある  
角(つの)だせ槍(やり)だせ あたまだせ
- 二、でんでん虫々 かたつむり  
お前のめだまは どこにある  
角だせ槍だせ めだまだせ

### 6. 故郷

- 一、兎追いし(うさぎおいし)かの山  
小鮒釣りし(こぶなつりし)かの川  
夢は今もめぐりて  
忘れがたき故郷
- 二、如何に(いかに)います父母(ちちはは)  
恙なしや(つつがなしや)友がき(ともがき)  
雨に風につけても  
思いいずる故郷
- 三、こころざしをはたして  
いつの日にか帰らん  
山はあおき故郷  
水は清き故郷

### 7. うさぎとかめ

- 一、もしもし かめよ かめさんよ  
せかいのうちで おまえほど  
あゆみの のろい ものはない  
どうして そんなに のろいのか
- 二、なんと おっしゃる うさぎさん  
そんなら おまえと かけくらべ  
むこうの 小山の ふもとまで  
どちらが さきに かけつくか
- 三、どんなに かめが いそいでも  
どうせ ばんまで かかるだろ  
こころで ちょっと 一ねむり  
グーグーグーグー グーグーグー
- 四、これは ねすぎた しくじった  
ピョンピョンピョンピョン ピョンピョン  
ピョン  
あんまりおそい うさぎさん  
さっきのじまんは どうしたの

## 8.われは海の子

- 一、我は海の子白浪（しらなみ）の  
さわぐいそべの松原（まつばら）に  
煙（けむり）たなびくとまやこそ  
我がなつかしき住家（すみか）なれ
- 二、生れてしおに浴して（ゆあみして）  
浪（なみ）を子守（こもり）の歌と聞き  
千里（せんり）寄せくる海の気（き）を  
吸いて（すいて）わらべとなりけり
- 三、高く鼻つく（はなつく）いその香（か）に  
不断の（ふだん）花のかおりあり  
なぎさの松に吹く風を  
いみじき楽（がく）と我は聞く

## 9.浦島太郎

- 一、昔々浦島は  
助けた亀に連れられて  
竜宮城（りゅうぐうじょう）へ来て見れば  
絵（え）にもかけない美しさ
- 二、乙姫様（おとひめさま）のごちそうに  
鯛や比目魚（ひらめ）の舞踊（まいおどり）  
ただ珍しく面白く（おもしろく）  
月日（つきひ）のたつのも夢の中（うち）
- 三、遊びにあきて気がついて  
お暇乞い（おいとまごい）もそこそこに  
帰る途中の楽（たのしみ）は  
みやげにもらった玉手箱（たまてばこ）
- 四、帰って見ればこは如何に（いかに）  
元居た（もといた）家も村も無く（なく）  
路（みち）に行きあう人々は  
顔も知らない者ばかり
- 五、心細さ（こころぼそさ）に蓋（ふた）取れば  
あけて悔しき玉手箱（たまてばこ）  
中からぱっと白烟（しろけむり）  
たちまち太郎はお爺さん（おじいさん）

## 10.春が来た

- 一、春が来た 春が来た どこに来た  
山に来た 里に来た 野にも来た
- 二、花がさく 花がさく どこにさく  
山にさく 里にさく 野にもさく
- 三、鳥がなく 鳥がなく どこでなく  
山でなく 里でなく 野でもなく

## 11.春の小川

- 一、春の小川は さらさらいくよ  
岸のすみれや れんげの花に  
すがたやさしく 色うつくしく  
咲いているねと ささやきながら
- 二、春の小川は さらさらいくよ  
えびやめだかや 小ぶなの群れ（むれ）に  
きょうも一日 ひなたでおよぎ

## 12.雪

- 一、雪やこんこ 霰（あられ）やこんこ  
降っては降っては ずんずん積る（つもる）  
山も野原も 綿帽子（わたぼうし）かぶり  
枯木（かれき）残らず 花が咲く
- 二、雪やこんこ 霰やこんこ  
降っても降っても まだ降りやまぬ  
犬は喜び 庭駆けまわり（かけまわり）  
猫は火燵（こたつ）で 丸くなる

## 13.村祭

- 一、村の鎮守（ちんじゅ）の神様の  
今日はめでたい御祭日（おまつりび）  
どんどんひやらら どんひやらら  
どんどんひやらら どんひやらら  
朝から聞える笛太鼓（ふえたいこ）
- 二、年も豊年満作（ほうねんまんさく）で  
村は総出（そうで）の大祭（おおまつり）  
どんどんひやらら どんひやらら  
どんどんひやらら どんひやらら  
夜まで賑う（にぎわう）宮の森（みやのもり）
- 三、治まる（おさまる）御代（みよ）に神様の  
めぐみ仰ぐや（あおぐや）村祭  
どんどんひやらら どんひやらら  
どんどんひやらら どんひやらら  
聞いても心が勇み立つ（いさみたつ）

## 14.兎のダンス

- 一、ソソラ ソラ ソラ 兎のダンス  
タラッタ ラッタ ラッタ  
ラッタ ラッタ ラッタラ  
脚（あし）で 蹴り（けり）蹴り  
ピョッコ ピョッコ 踊る  
耳に鉢巻（はちまき）  
ラッタ ラッタ ラッタラ
- 二、ソソラ ソラ ソラ 可愛いダンス  
タラッタ ラッタ ラッタ  
ラッタ ラッタ ラッタラ  
とんで 跳ね（はね）跳ね  
ピョッコ ピョッコ 踊る  
脚に赤靴（あかぐつ）  
ラッタ ラッタ ラッタラ